

苫小牧市長

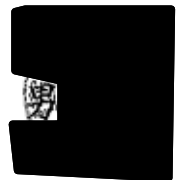
岩倉博文様

要望書

令和元年7月26日

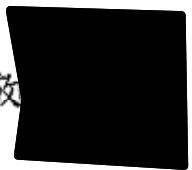
苫小牧溶接協会

会長 渡部 義



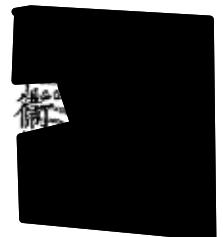
北海道機械工業会苫小牧支部

支部長 長谷川 敬



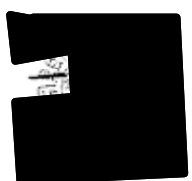
苫小牧電業協会

会長 中村 衛



苫小牧電気工事業協同組合

理事長 長居 順



地元技術者の育成・確保について

【要望理由】

全国においては、少子高齢化の影響などにより、平成20年をピークに既に人口減少の局面になっておりましたが、本市においても、平成26年以降、人口が減りはじめ、これに伴い15歳から64歳までの生産年齢人口も減少が続いております。

市が公表した統計データによると、市内の高等学校卒業生数は昭和63年をピークに平成30年には6割程度にまで減少しております。また、昨今、全国的な人手不足も相まって、首都圏など大都市圏、特に大手企業などへの若年人材の流出が続いており、東京一極集中がさらに加速する中、地域では、新規採用をはじめ人材確保が極めて困難な現状にあります。

このような中、優秀な若手技術者を継続的に確保し、技術・技能を継承していくことは、将来にわたって、本市の活性化と地元関連業界の持続的な発展に不可欠なことであり、最重要課題であると認識しております。

つきましては、経済界及び関連業界の危機的な状況の解決に向け、次の要望事項について特段のご配慮をお願い申し上げます。

【要望事項】

- 道立苫小牧高等技術専門学院においては、地元関連業種への就職意欲の高い生徒が多く、訓練内容も各種資格取得はもとより、職業意識の向上や必要な技能の修得がなされ、貴重な若手技術者の育成の場となっていること。
- この学院は、昭和40年開設以来、これまで5千人以上が修了し、平成29年度からは、道が地域の関係業界の要請に応じて2年制課程を導入し、将来、企業の中核を担う、より高度な技術者を輩出する体制が整備されたもので、今後とも関係業界のみならず地域にとっても、必要不可欠な職業能力開発施設と認識。
- しかしながら、高等学校卒業生の減少や、人手不足による求人倍率の上昇などにより、近年の入校者は減少の一途を辿っており、本年度入校生は、1学年定員30名に対し、3科計8名に留まったところ。
- 一方、室蘭市、北見市においては、それぞれの技術専門学院の入校者が減少している状況を踏まえ、生徒に対する資金援助など、バックアップ体制づくりを進めている。
- このため、当市においても、入校生が安心して職業訓練を行えるよう、さらに保護者の理解を得て入校促進が図られるよう助成制度の創設を行うこと。